

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築1：文字学に関する用語・概念の研究」

公開ワークショップ「マヤ文字と文字学」+2019年度第3回研究会

日時：令和2年2月15日（土曜日）午後13時30分より午後17時、2月16日（日曜日）午前8時30分より午後15時

場所：AA研304室

報告者名（所属）

2月15日

1) 荒川 慎太郎（AA研所員）

「『アジア文字研究基盤の構築1』の紹介」

(On the Project 'Construction of Method of Studies on Asian Scripts 1')

第1期最終年度となった本課題について、研究の背景、特色について説明したのち、文字学に関する用語・概念を、例を交えて紹介した。なお、第2期の課題構想、年間計画についても述べた。

2) 八杉 佳穂（国立民族学博物館・名誉教授）

「近年のマヤ文字及び文献研究」

(Recent Studies of Mayan Glyph and te Documents)

メソアメリカはオルメカ文字やサポテカ文字など独自に文字を生み出し発達させた地域であり、全域の文字体系を概観したのち、表語文字と表音文字の混合体系であるマヤ文字の特徴について、最新の解読状況とその問題点をとりまぜながら、述べた。

3) 荒川 慎太郎（AA研所員）

「西夏文字研究と文字研究のための術語」

(Terms for the Study of Tangut Script)

課題第1期の総括にかえて、西夏文字研究を例に、文字研究のための術語としてどのようなものが必要か述べた。西夏文字・西夏語の基本について説明したのち、西夏文字研究の術語「対称字（対称文字）」を再考し、「可変部首・不変部首」という術語が有用であることを述べた。

その後一般参加者も交えて総合討論を行った。総勢40人と、想定以上の参加者を得、盛会のうちに幕を閉じた。

2月16日

4) 全員

課題第2期に関する年間計画について打ち合わせを行った。

5) 八杉 佳穂

「マヤ文字の研究」

(Studies of Mayan Glyph)

前日に引き続き、マヤ文字に関して共同研究員との質疑を行った。

6) 全員

文字研究のための術語に関する討議を行った。